



南城市が次の20年へ歩むために、どのような人を育み、
外の視点をどうまちづくりに生かしていくのか。
海外短期留学を経験した平田華蓮さんと大城憲幸市長が、
ふるさとと世界をつなぐ未来について語り合いました。

海外への一歩が、未来を変えた

- 平田 私が英語に興味を持ったきっかけは、小学校5年生の時に参加したESLキャンプでした。アメリカから来た先生方と過ごす中で、英語が好きになって、「もっと学びたい」という気持ちが芽生えました。その後、南城市の海外短期留学事業があることを知って、応募しました。
- 大城 ESLキャンプは名護で宿泊するプログラムですね。
- 平田 海外留学となると費用面で両親に負担をかけるのではという心配もありました。でも、南城市から補助があるということで、両親も「頑張ってこい」と背中を押してくれました。
- 大城 南城市の海外短期留学は、単に英語を学ぶだけの事業ではありません。現地の大学寮に泊まり、実際の教室で講義を受ける。若い時期に本物の環境にふれることができるのが、この事業の大きな特徴です。
- 平田 私も、まさにその環境に刺激を受けました。初めて長期間、海外へ行く経験でしたが、不安よりもワクワクの方が大きかったです。海外に行ける、英語を学べる。そのことが本当に楽しみでした。
- 大城 人はどうしても、自分の常識の中で「自分はこれくらいだろう」と枠を決めてしまいがちです。その枠を広げる機会を、子どもたちに届けたいという思いがあります。

語学以上に得られた「挑戦する心」

- 平田 短期留学で特に大きかったのは、アメリカのコミュニティカレッジ(2年制大学)の存在を知ったことです。それが、その後の進路を考える決定打になりました。
- 大城 中学生の時の経験が、高校卒業後の進路につながったわけですね。
- 平田 はい。高校卒業後、アメリカ・ワシントン州のワットコム・コミュニティカレッジに進学しました。2年間学んだ後、

- 琉球大学に3年次編入しました。海外の4年制大学にいきなり進むよりも、挑戦しやすい道があることを知れたのは大きかったです。
- 大城 短期留学が、単なる思い出で終わらず、その後の本格的な学びにつながった。これは本当にうれしいことです。
- 平田 海外で学んだことで、「挑戦することの大切さ」を身をもって知りました。日本では空気を読むことが大事にされる場面もありますが、海外では自分の考えを示さないと、意思がないと受け取られることもあります。手を挙げて発言すること、自分の意見を伝えること。その経験が、今の自分の姿勢にもつながっています。
- 大城 空気を読むことは日本の文化でもありますが、海外ではそれだけでは通用しないこともある。若い時期にそれを肌で知ることは、大きな学びですね。
- 平田 現在は、グローバルな環境の職場で社会人として働いています。アメリカで「話す」だけでなく、「読む」「書く」ことも含めて学んだ経験は、今の仕事にも生きています。

多様な視点が次の20年の力になる

- 大城 海外へ出て、南城市への見方に変化はありましたか。
- 平田 大きく変わりました。アメリカでは、仕事や家庭の事情で州を移りながら暮らしていて、「帰る地元」を持たない人もいます。その時に、自分にはいつでも帰れる場所がある。それは自分のアイデンティティであり、本当にありがたいことなんだと気づきました。
- 大城 外に出たからこそ、ふるさとの存在に気づくことがありますね。
- 平田 はい。私は4歳から琉球舞踊を続けていますが、南城市は地域行事や伝統芸能がとても盛んです。以前は当たり前だと思っていた地域の芸能や文化が、一度海外に出たことで、誇るべきもの、守っていくべきものだと感じる



第6代 南城市長

大城憲幸



海外短期留学経験者

平田華蓮

ひらたかれん：中学3年の時に海外短期留学に参加。佐敷出身。現在は、グローバルな環境の企業で働く社会人1年目。



- ようになりました。
- 大城 南城市のような地域に、なぜ外の世界を見た人材が必要なのか。そこはとても大事なところですよ。外から来た人や、外を見て戻ってきた人は、「南城市はもっと良くできる」「これは磨けば宝になる」と気づくことが多いんです。地域の中にいると見えにくい価値も、外の視点が入ることで見えてくる。
- 平田 外の世界を知ること、ふるさとの見え方も変わりますよね。
- 大城 ずっと南城市に住み続けて、地域を支えてくれている人たちがいます。一方で、外に出て学び、働き、違う価値観にふれて戻ってくる人もいます。さらに、外から南城市に来て、この地域の可能性に気づいてくれる人もいます。そういう多様な視点が混ざり合うことが大切なんです。
- 平田 いろいろな立場の人が関わることで、新しい考え方や機会が生まれるということですね。
- 大城 沖縄の言葉で言えば、まさにチャンプルーです。地元で暮らし続けてきた人の知恵、外を見てきた人の視点、外から来た人の発想。それぞれが混ざり合うことで、南城市のまちづくりはもっと豊かになります。だからこそ、子どもたちには外の世界を見るチャンスを持ってほしい。そして、どこで暮らし続けていても、南城市とつながり続けてほしいと思っています。
- 平田 外へ出ることは、ふるさとはから離れることではなく、ふるさとをもう一度見つめることにもつながるんだと思います。
- 大城 そうです。南城市から世界へ出ていく。そして世界で得た経験や視点を、また南城市へつなげていく。その循環が、次の20年の南城市をつくる力になると思います。

次の世代へ、挑戦の道筋をつなぐ

- 平田 私は市のサポートや家族の理解があって、この道を歩むことができました。だからこそ、経済的な理由で諦めることなく、短期留学の“その先”にある選択肢を選べる環境が、さらに整ってほしいなと思います。
- 大城 親の経済的な状況によって、子どもたちの選択肢が狭まってしまうことは、できる限りなくしていかなければ

- なりません。もちろん、海外留学にかかる費用や物価高など、事業を続けていくうえでの課題はあります。それでも、市民の皆さんの理解をいただきながら、続けていきたい事業です。
- 平田 海外に出ることで初めて知る世界がたくさんあります。ぜひ自分の足で現地に行き、自分の目で世界を見てほしいです。
- 大城 地元に残って頑張る道もあれば、那覇へ、県外へ、海外へ羽ばたく道もあります。いろいろな生き方があっていい。ただ、大人の責任として、子どもたちが「世界を見たい」と思った時に、そのチャンスをつかめる仕組みを準備しておきたいのです。
- 平田 身近に同じような道を歩んだ先輩がいると、若い世代も挑戦しやすくなると思います。私の経験も、これから挑戦する子どもたちの後押しになればうれしいです。
- 大城 先輩の存在は大きいですね。私自身も、地域から琉球大学へ進学した先輩の姿を見て刺激を受けた経験があります。平田さんのような経験者が、「留学前は不安もあるけれど、行ってみたらこんな世界が広がっているよ」と伝えてくれるだけでも、子どもたちにとって大きな道しるべになります。

未来へつなぎたい言葉

- 大城 最後に、南城市の未来に向けて大切にしたい言葉を挙げるとしたら、平田さんは何を選びますか。
- 平田 私は「つながり」です。地域コミュニティのつながりはもちろん、県外や海外とのつながりも大切です。人と人がつながることで、新しい機会が生まれます。多様な価値観や考え方が南城市の中で混ざり合うことで、さらに素晴らしい地域になっていくと思います。
- 大城 私は「次の世代への責任」です。政治に携わって20年以上になりますが、常にその思いを根っこに持って行動してきました。目の前にはさまざまな課題がありますが、自治体の長として、次の世代が誇りを持てる、そして広い世界へ羽ばたいた人材が「帰ってきたい」と思える南城市を残していくこと。それが私たちの責任だと思っています。